

# 附中が授業づくりの面白さと深さを教えてくれた

## 1 附中での六年間

附中時代に教師として学んだことを語り始めたら、尽きることはありません。あえて一つに絞ると、授業づくりの面白さと奥深さです。

数学科の先生方と日々論議

鍛えるプロでした。

おかげで、30年近く経った今でも、大学講義、講演、書籍などで、附中時代に開発した教材を、自信を持って提示することができます。

数学を通して  
思考力を鍛える  
ことができ

## 2 附中で得た財産

業をしたときのワクワク感が蘇ります。

附中を出てからは、地元・小牧の中学校で教務主任、教頭、校長、愛知県教育委員会(指導主事、主査、事務所長)を務めさせていただきました。

この間、どのような立場に

また、今となって附中時代で得た財産にあらためて気づいたことがあります。それは教育におけるコンピュータの活用についてです。

附中に赴任したときに、副校長から指令を受けました。「コンピュータを活用した授業を研究発表会で提案してほしい」というものでした。なぜ私が?と思いましたが、愛知教育大学の

飯島康之先生  
の力もお借り  
して、「数学  
発見型ソフト

コンピュータシステムを企業と共同開発しました。このシステムは「統合型校務支援システム」という言葉を生み出しました。全国の学校にこのシステムを導入する事業が文部科学省でも立ち上がり、委員長を務めさせていただきました。

個性を大切にして、その個性を活かす教育を具現化している学校なのだと思います。いつの時代も「附中らしさは何か?」と、生徒も教師も問いつつ、生かすのではないのでしょうか。それは一人一人の個性を大切にしたいという精神が受け継がれていて、時代に合わせた魅力ある学校づくりを目指しているからこそです。

校長を定年より2年早く辞し、岐阜聖徳学園大学教育学部に異動しました。現在は、未来の教師を育てるために日々奮闘

ちなみに、私が附中でお世話になっていたときの研究テーマは「個を生かす授業の創造」でした。

# 附中以後の私

し、時には明け方まで熟議を行い、附中生を知的に刺激できる授業を目指して教室に向かったあの日々を、とても懐かしく思い出しています。

附中生の特性でしょうか。面白い教材に対しては、こちらの予想を遙かに超えたのめり込みを見せてくれました。しかし、興味が持てない教材になると、授業に参加しているふりをしながら、自分がやりたいことに集中している人もいて、己の授業力はまだまだまだと知らされま

した。附中生は、まさに教師を

る本質的な教材を、附中の皆さんが教えてくれたからです。

当時の数学科の先生方と「数学の授業を感動の連続に」(玉置崇・鈴木良隆・八楨直幸・永井聡・鈴木登美雄著/明治図書) 写真下という本を出版することもできました。残念ながら今は絶版ですが、この本には附中生が考えた課題解決の記録をたくさん掲載しました。それを眺めると、附中生と数学授

なってもこだわり続けていたのはよりよい授業づくりです。振り返ると、こだわりの原動力は附中時代に皆さんや数学科の先生方と創った数学授業でした。一人一人のつぶやきや考えを大切に、様々なアイデアを出しあい高め合う、附中で展開されていたこうした授業を、どの学校でも行ってほしいと願う

たのです。教育におけるコンピュータ活用は、子どもたちにとって学びを豊かにする道具であるべきだということです。教師にとっても、仕事を効率的に、そして授業をより充実させる道具であるべきだという確信です。この確信は、現在でも揺るぎません。

教頭、校長時代には、教師の仕事が効率的かつ一元化するコ

## 岐阜聖徳学園大学教育学部教授 玉置 崇

平成2年4月〜平成8年3月在職(教諭)

ウエア」を開発しました。このときに痛烈に思い知ったのです。教育におけるコンピュータ活用は、子どもたちにとつて学びを豊かにする道具であるべきだということです。教師にとっても、仕事を効率的に、そして授業をより充実させる道具であるべきだという確信です。この確信は、現在でも揺るぎません。

私の教師人生をとても豊かにしてくれた附中の皆さんとの出会いに、あらためて感謝します。

